

KODAK COLOR CONTROL PATCHES

© The Tiffen Company, 2000

LICENSED PRODUCT

Blue

Cyan

Green

Yellow

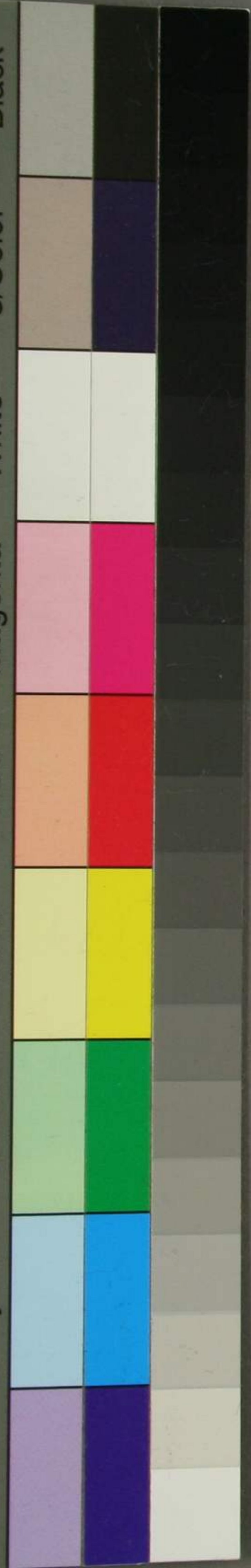
Red

Magenta

White

3/Color

Black









又むらり。方山内。居り。親玉の。いり。か。金。く  
人情。わ。る。あ。を。と。え。て。流。川。笑。  
ひ。の。面。白。く。上。野。の。岡。を。飛。ぶ。心。の。さ。る。の。目。ま。  
角。田。川。わ。ら。わ。ら。い。た。あ。ら。わ。い。た。あ。ら。わ。い。た。  
ま。や。だ。芽。一。ふ。人。知。集。を。け。ま。は。り。集。り。  
ち。の。酒。を。飲。み。終。る。酔。わ。せ。ん。れ。ば。も。多。れ

群。士。の。ま。ま。を。執。を。ま。た。び。つ。あ。ら。わ。い。た。車。を。こ。り  
よ。う。の。首。の。ゆ。え。を。い。ま。ま。に。そ。の。酒。の。み。作。法。  
人。情。深。淺。を。あ。ら。わ。い。た。二。編。三。編。四。編。五。編。  
し。ら。べ。の。編。の。上。本。を。鳥。居。に。あ。ら。わ。い。た。  
の。ま。ま。を。採。り。た。酒。の。し。ら。べ。を。長。き。あ。ら。わ。い。た。  
雅。座。の。ま。ま。の。張。り。を。あ。ら。わ。い。た。













藤井の於迎

和合が二女

せらふて 切替うふ

英洲より 参り来る

甘んじ 清雅の場於支



○ 折寄りやうきを問ふにまじりてはたの松娘をうらむに  
青洲の春英

○ 竹 年経もみぢのまじりてはたの松娘をうらむに  
全

○ 梅 年毎に春新しくは梅とあはれゆべふははるけき  
全



遊仙奇遇錦の里卷之十

江戸 爲永春水作

第十九回

さても清雅がお梅とせ修よりさるえいお梅は只家の娘  
 より登りし中よりあるうら別津く着いむまで又捨がこ  
 おりしきおれのお花のあとを思ひてあはれくおせしよりの  
 お梅の兄殿九郎とら小者後がかりよくお梅のむすこ  
 くと派との遠ひよそ好とあまり合縁をうりくあしき











を視る格う男に惚くくろりやアガるうらほの格入や  
を氣付くうらとひてそれと格入とひてくおる且格入  
格入又それのうらなる中へくくと踏むてそれうら  
倦こと憂うけ方も他人巢をさる支なをく居る  
まどくくもまひの格入ナニノ五支ヤ三支のそく今を借  
て後格入くして引合めろ格入でも今日且格入の格入を  
待く格入く二十一日にうらなるもあひれい格入を

赤二三年も格入く入きうら仕く格入格入格入格入  
トよを笑うり格入もさほぐ小梅くあねまの合方祝格入  
をちり格入くくけあくと思ひぬのそら苦界と返格入格入  
の身をもく格入勅く格入と鬼く格入格入格入九帝格入  
格入もり格入く格入と心の中お思ひ定め格入ヤく格入  
も格入むく格入まぐ格入格入格入格入格入格入格入  
格入の自由ふる格入を格入格入格入格入格入格入格入





救世  
の  
指  
針  
は  
此  
の  
如  
き  
也







敵ありしともう海へ入らば組づるがわりの幸入 喧嘩を  
 立寄しつる熊の帝もどめハ控極まらうか例の足が  
 邪見ぞと推量しつて中へ抜小隙子をあつた跡を  
 お梅續く欠劣に九帝出合うらに熊五帝が  
 首を下と突くれば狗骨突れり九帝作向  
 ぶらよ例をきくをきうつて熊の帝が敵さあどりて  
 足不跳飛し 熊 ヤイ この聲人め工近所よ人も

云極し女をおまふ例をさしきやアがること途方も移へ  
 トよを笑つて起る九帝 熊 ラ、さあどのどが  
 何極しおまを催ごととあつてコレお梅が兄を  
 ぶそ口 好を折檻するに催り例とらふりのが  
 いらよせ極し出やアがるとあまらせへけ方を  
 やアがるナサアこれくらア あれが馬の脚さ移へど  
 うぬをおまぶて覺悟を仕やアがる 熊 ア、く



こまアおひれくそつち重方あひがおまはるのあくとりこまての  
 け方こまがおまふあつとくこま迹こまヤア仕納くモユレヤよく  
 きくをおち落つけさおれがひる子をまきやアぐれまづ  
 才こま一才の家こまの住人が宅こまごとおちと思つとふまこんど  
 あをれやアがつるサアそれをま使まぐ王こま様ナニ住こまが宅こま  
 ごとおれがおち母おちのお務おちの家おちアこまニヤおちそのやア  
 了おち皆遠おちごけ宅おちの室おち屋おちの旦那おちの隠居おち所おちでこの  
ニシキナシ

熊こまさんが五おち俣おち店おち徒おちどアサアおちら人の留おちちおちにふそ  
 あんてるぜあをれおちこまおけがあらバはてまやアられ  
 十おちニ母おちがナおち熊おちユレサおちくおちおちおちきおちよくおち使おちツおちーおちヨおち様おち云おち  
おち兄おちごらうが母おちごらうが表おち向おちふまおちねバお梅おちさんおちの  
おちけ宅おちのまおちお人おちどア徒おち人もあねおちの人おちをもおち居おちと徒おち文おち  
 があらアそのお梅おちさんの兄おち居おちあらうハお梅おちのおちまおち  
おちにもおちら人の家おちサアおちそれおちてもおちアおちまおちをおちまおちやアおちがるおち  
おち



うとまうへさうも候所小にも利の力もはよく  
 弱きを救ふ使宗の生得おも教さん好ひ勇  
 らあふもそれく候九節え来務れぬ身の本法  
 まけぬ口の若をうり悪口まるより知れなく表の  
 方へ逆歩へ可突もまゝあらうへて候所候  
 を片舟そろうちへてお梅をのさうり候切は女抱と  
 宗をあぶさめ力をつけさうり〜とを

ニシキナハ

第廿回

再読候所へお花は對して彼お梅の始終を〜と  
 お讀て後よまけ〜  
 一トキニお花さん今咄〜通りの  
 分解ぐ先達中うらけ近所の娘さん宅へ往く候  
 びちら〜う喜のお静さん所へ這入込く洒落て居る  
 のもえを乳〜と〜不殘お花を慰ひあがれ〜候事  
 仍も浮落〜と〜サ宗お梅さんの一件へ秘が付〜



ので清雅さんのお母さんで女中買ふ様なまのこのぢやア  
 望子 望子様がお梅さんの所へお遊びに来る様な別  
 お茶に似く居るものを私にまわしてサ 何様も妙小  
 系系地をさるお花さんごらゝゝ夜とも云まは  
 まひらりマア尚座の系休めにお梅さんといふ嬢の  
 所へお出なせへお花さんの顔小写真で何様も系性  
 も似く居る様な様ごらゝゝと云様よ引もつゝ何様の  
 二九

○それよりお梅の清雅と然り所へ二通のうま  
 お花を預して何様知れまゝありけりがその様は  
 といひ私を隠せし始末外は情人あるまゝそ  
 けりる様はあらは彼兄様九帝のお花の歳年  
 も非をさるゝと云は清雅もも中身の花  
 相と云はるゝと云様はと云はるゝと云はるゝを  
 くらゝと云はるゝ何年を身のものらひる夜報と



































たろを 次つぎの巻まきとよきとあぐ

小龜

平祐赤

錦にしきの里さと巻之十

三十八



